

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)
『革新的設計生産技術』推進委員会(第1回)
議事要旨

1. 日 時：平成26年6月3日(火) 10:00~12:00
2. 場 所：中央合同庁舎第4号館12階 共用1214特別会議室
3. 出席者：(敬称略)

(総合科学技術・イノベーション会議)

久間 和生 常勤議員 SIPガバナリングボード議長
原山 優子 常勤議員

(議長) 佐々木 直哉 プログラムディレクター(PD)

(外部有識者)

安齋 正博 芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授
善本 哲夫 立命館大学経営学部教授 デザイン科学研究センターセンター長
安井 公治 三菱電機株式会社FAシステム事業本部
産業メカトロニクス事業部 技師長

(関係省庁)

油科 壮一 経済産業省産業技術環境局 研究開発課 戦略官
工藤 雄之 文部科学省科学技術・学術政策局 研究開発基盤課
量子放射線研究推進室 室長
今田 潤 文部科学省研究振興局 参事官(情報担当)付 企画係長
(田畑 伸哉 同 情報科学技術推進官欠席のため代理出席)
弓取 修二 NEDO ロボット・機械システム部 部長
古川 雅士 JST 経営企画部
重点分野推進チームナノテクノロジー・材料分野 研究監

(オブザーバ)

遠藤 充 経済産業省産業技術環境局 研究開発課 専門職
神部 匡毅 文部科学省科学技術・学術政策局 研究開発基盤課
量子放射線研究推進室 室長補佐
中野 剛志 NEDO ロボット・機械システム部 主幹
渡辺 秀明 NEDO ロボット・機械システム部 主任研究員
丹野 興一 NEDO ロボット・機械システム部 主査
高津佐 功助 NEDO ロボット・機械システム部

(事務局)

山岸 秀之 内閣府 科学技術・イノベーション担当 審議官
渡邊 昇治 内閣府 科学技術・イノベーション担当 参事官
西條 正明 内閣府 科学技術・イノベーション担当 参事官
守屋 直文 内閣府 科学技術・イノベーション担当 政策企画調査官
山本 大介 内閣府 科学技術・イノベーション担当 政策調査員

4. 議事

- (1) S I Pの概要及び各種規程について
- (2) 推進委員会の設置及び運営要領について
- (3) 研究開発計画について
- (4) 研究者公募の方法、審査基準等について
- (5) 今後のスケジュール
- (6) 公募要領等について 【非公開】
- (7) その他 【非公開】

5. 配布資料

- 資料 1-1 S I Pの概要
- 資料 1-2 科学技術イノベーション創造推進費の基本方針
- 資料 1-3 S I Pの実施方針
- 資料 1-4 S I Pの運用指針
- 資料 2-1 S I P推進委員会の設置について
- 資料 2-2 S I P『革新的設計生産技術』推進委員会運営要領
- 資料 2-3 S I P『革新的設計生産技術』推進委員会（第1回） 構成員名簿
- 資料 3-1 S I P『革新的設計生産技術』研究開発計画
- 資料 4-1 研究者公募の方法、審査基準等について
- 資料 5-1 今後のスケジュール
- 資料 6-1 公募要領案 【非公開】（机上配布のみ）

6. 議事要旨

議事に先立ち、久間議員より、ご挨拶と、第1回総合科学技術・イノベーション会議にてプログラムディレクター（PD）として佐々木氏が正式決定しスタートした旨の報告、及び、事務局より資料2-3記載の構成員他の紹介が行われた。
議事の進行は、議長の佐々木PDによる。

(1) S I Pの概要及び各種規程について

資料1-1から1-4に基づき、事務局から説明がなされた。

(2) 推進委員会の設置及び運営要領について

資料2-1、2-2に基づき、事務局から説明がなされた。

(3) 研究開発計画について

資料3-1に基づき、佐々木PDから説明がなされた。

関連して、油科構成員より、経産省本年度事業の金属3Dプリンタに関する取組が紹介された。

構成員他からの主要な発言は以下の通り。

・経産省本年度事業と本S I P事業との棲み分けが、金属材料と非金属材料という区分けに

よるようだが、S I Pでは金属とプラスチック等の複合材料を視野に入れるべきと考える。
→研究開発項目（B）は複合化やシステム化を視野に入れ、組合せも想定しているところ（P D）。

- ・ 図表 2－1「イノベーションスタイル」にユーザが入っていないイメージ図になっているが
 必要ないか。
 →この図は研究者主体で記載したもので、研究計画内容や公募ではユーザの視点入れ込んで
 いる（P D）。
- ・ 研究開発項目（B）では、グローバルに生産システムで勝っていくという視点が重要。研
 究開発項目（A）は、グローバルに展開するターゲットユーザとのコミュニケーションを
 もとに設計頂くと良い。
- ・ イノベーションスタイルにユーザの視点をどう入れ込むかよく検討すると良い。
 →グローバル視点では多様な国民性の違いや、製品やシステムがおかれている環境により
 差がでると考えている。進めるにつれ課題も見えてきて、仕組みを向上させていく考え。
 皆様のご指導宜しくお願いしたい（P D）。

（4）研究者公募の方法、審査基準等について

資料 4－1に基づき、N E D Oから説明がなされた。

構成員他からの主要な発言は以下の通り。

- ・ 実施期間原則 5 年について、どこまで明確化すべきか気になる。
- ・ 公募説明会は、東京、大阪以外に、地域資源考えて追加の検討をすべきでは。
 →可能かどうか検討する（P D）。
- ・ 予算規模の下限 5 千万円／年の意図は、数が多すぎると十分なマネジメントができなく
 なるためか。
 →ご賢察のとおり（P D）。
- ・ 成果目標未達による早期終了があるのに対し、目標成果前倒し達成による早期加速終了は
 ありうるか。
 →ありうると考えている（P D）。
- ・ 毎年度の評価の委員は固定か。
 →メンバー選定はこれから。いくつかのステージ毎に考える（P D）。
- ・ 研究開発項目（A）と（B）とが連携することが重要。
 →本プログラムが、研究開発項目（A）、（B）を組み合わせる出会いの場になる可能性も

ある（P D）。

（５）今後のスケジュール

資料５－１に基づき、事務局から説明がなされた。

構成員他からの主要な発言は以下の通り。

- ・ 良い案件が出てこなかった場合再公募を行うべきかどうか。採る、採らないという判断に加え、条件付きの採択＋再審査という判断があると思う。
- ・ 参考に、スイスでは提案した方々に対し、計画を作り込む支援・調整を行っている。

（６）公募要領等について 【非公開】

資料６－１に基づき、N E D Oより公募要領案の説明がなされた。

十分な審議を行い、内容について確認された。

○（１）から（５）を通したコメント

- ・ 本プログラムでは、成果主義を徹底し、短中長期的に経済貢献するようなものにして欲しい。また、S I Pは府省連携で1＋1を2以上にしよう欲しい。
- ・ 新しい取り組みなので皆さんでアイデアを出して欲しい。欧米も試しつつやっており、よく各国の政策動向もベンチマーキングしながら推進して欲しい。

以上